



研究者みょうり

取締役
経営企画副本部長

原田 謹次

技術開発が企業発展の原動力であり、その技術水準が企業の成長力を左右する時代になったいま、企業は研究開発に可能な限りの経営資源を投入し、その成果に多大な期待を寄せている。

企業の研究開発は経営戦略面から二つの開発機能をもっている。一つは長期経営戦略に基づいた研究開発機能であり、いま一つは当面の経営にインパクトを与えるより戦術的な開発機能である。前者をコーポレトリサーチ、後者をディビジョンリサーチとも呼んでいる。各々の目的と開発姿勢は異なるが、いずれの場合もテーマの選択は十分な勝算のもとに立案され、成果が企業化に結びつくことが要求される。

コーポレトリサーチは、将来の社会が何を求めているか、マーケットニーズに反映した商品を自らの知恵とオリジナリティーをもって開発することであり、亀の歩みでもよいから着実に目標を射止めることであろう。これに対してディビジョンリサーチは、企業がすでに行っているビジネスの分野で、市場がより満足する商品を競争相手に先駆けて市場に提供することが命題とされる。従って開発のテンポは亀の歩みでなく兎跳びのはやさが要求される。

技術革新に対応できることが、企業が生き残りかつその体質を向上させる必須条件であるいま、これから研究開発者に課せられる要求、期待はますます大きくなっていく。自らの情熱を燃やして取組んだ研究も、途中でがけっぷちに追い込まれることもあろうが逃げることなく、やる気と自信を失わず困難を克服すれば必ず喜びの日が待っている。その日こそ研究者のみが味える喜びであり、研究者みょうりにつきるときであろう。